

第19回日本気象学会夏期特別セミナー（若手会夏の学校）の報告

第19回日本気象学会夏の学校実行委員会*

1. はじめに

日本気象学会夏期特別セミナー（夏の学校）は、全国の若手研究者が一堂に会し、自らの日頃の研究成果を発表しつつ普段は接する機会が少ない他の研究分野の最新の話題を知り視野を広げること、参加者相互の大学や研究機関を越えた交流を行うことを主な目的として毎年開催されております。第19回目を迎える今年度は、2007年8月6日（月）から8月8日（水）までの2泊3日の日程で、札幌市のNTT北海道セミナーセンタにおいて、北海道大学が主幹となって開催されました。併せて「地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリー形成」講習会（VL講習会）が行われたこともあり、九州から北海道まで、修士課程の学生を中心に約90名の参加がありました。

2. 招待講演

今年は北大所属の教授4名、および北大出身の若手研究者1名を招待し講演を頂きました。参加者の多くは修士課程の学生であり、様々な専門分野を持つ学生が参加することを考慮し、参加者が自分の専門以外の分野へ視野を広げることができるような内容の講演を依頼しました。

○見延庄士郎（北海道大学大学院 理学研究院）

「大気海洋相互作用」

見延教授には、大気海洋結合系の変動メカニズムについて講演していただきました。特に中緯度での海洋から大気への熱強制が現在の気候形成、気候変動に重要な役割を担っていると考えことができ、例えば気候のレジームシフトは海洋での20年、50年振動の非線形的な結合によって説明できるのではないかという議論を紹介していただきました。講演の最後には、「研

究者を目指す若者へのアドバイス」と題して、将来研究者としてどのような姿勢で研究を進めるべきかという先生のお考えを紹介していただき、我々学生にエールを送っていただきました。

○河村公隆（北海道大学 低温科学研究所）

「有機エアロゾルの組成・分布と気候への影響」

河村教授には、大気中に存在する有機エアロゾルについて基礎的な知見を幅広く解説して頂きました。有機エアロゾルは微量であっても、その組成や濃度次第で水蒸気の凝結、雲の形成に大きな影響を与えると考えられており、地球温暖化のような大きなスケールから集中豪雨のような局地的な現象にまで影響を与えていると言われています。講演の後半では大都市、極域、東アジア・太平洋域と様々な空間スケールでの有機エアロゾルの組成とその時間・季節変動についての観測結果や、有機エアロゾルの吸湿特性についての実験結果を紹介して頂きました。エアロゾルの研究の重要性を再認識するとともに、その奥深さを感じる90分でした。

○藤吉康志（北海道大学 低温科学研究所）

「見えない風を観て、掴めない雲を掴む」

藤吉教授からは、「雲」という漢字の由来、昔の人は雲をどのように見ていたのかという話題から始まり、雲や風に関する最近の研究結果について紹介して頂きました。そして、現在北大に設置してあるコヒーレントドップラーライダーによって観測された晴天乱流、エアロゾル、雲の発生など多数の観測事例を紹介していただき、藤吉教授がどのように風を観て、雲を掴もうとされているのか紹介していただきました。

また、雲写真コンテストと題して、事前に参加者から面白い雲の写真をメールで募集し、講演の中で藤吉先生に講評していただくというイベントも行いました。

* 代表：古関俊也（北海道大学大学院環境科学院）、
ymss2007_info@eoas.ees.hokudai.ac.jp



○長谷部文雄

（北海道大学大学院 地球環境科学研究院）

「Cientifico Malo」

長谷部教授からは、オゾンホール発見に纏わる科学者達の人間模様やオゾンフィードバック仮説を提唱するに至る思考の道筋について、御自身の体験とそこから得られた教訓を織り交ぜながら紹介していただきました。またその教訓が、現在取り組まれている熱帯対流圏層における大気脱水メカニズムについての研究の中でいかに生かされているかについてもお話ししました。真実に到達することがいかに難しいことであるかを感じるとともに、研究者としてそこを目指すことの醍醐味を我々学生に教えて頂きました。

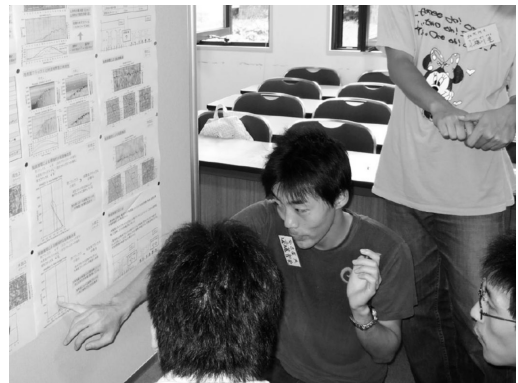
○近本喜光（東京大学 気候システム研究センター）

「アンサンブル予報を用いた熱帯大気の前測と力学」

近本博士にはカオスとアンサンブル予報の基礎について説明していただきました。気象現象はカオスの性質を持つ事が知られています。鋭敏な初期値依存性を持つ気象予報を行うにあたり、確率的な予報を行うことができるアンサンブル予報について、そしてアンサンブル初期値の作成方法について、初心者向けに丁寧に解説して下さいました。

3. 一般講演

参加者自らが自分の研究成果を発表する一般講演（口頭発表・ポスターセッション）は、会場を北海道大学環境科学院に場所を移して行いました。今年度は口頭発表6件、ポスター発表12件と例年と比べ少なかったものの、各発表者は日頃積み重ねてきた自身の研究とその成果について個性的且つ意欲的な発表を行い、多くの白熱した議論が交わされました。



4. 企画

懇親会中に行われた、恒例の研究室紹介では、各研究室から趣向の凝らした発表があり、会場は大いに盛り上がりました。懇親会後は親睦を深めた参加者同士で集まり、研究やPD問題をはじめとして、様々な話題を語り合い、夜がふけていきました。

今回の夏の学校では、参加者に北海道らしさを味わってもらおうということで、2日目の夜にジンギスカンパーティーを企画しました。当日は曇り時々雨という空模様となり、開催が危ぶまれましたが、開催時刻にはなんとか雨もあがり、参加者に野外でジンギスカンを楽しんでいただく事ができました。

5. おわりに

本年度も日本気象学会より資金補助を受けました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。2008年の夏の学校は、九州大学へ引き継ぐこととなります。次回も運営側、参加者双方にとって実りある夏の学校になることを願っております。最後に、夏の学校の企画、運営にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。